



職員募集

ご応募お待ちしております！
お問合せは下記へお電話ください。

調理、売店、外販スタッフ（6時間パート）

【資格】経験不問、要普免、厨房等での調理経験者歓迎
【勤務】8:00～15:00(休憩1時間)、月～金、第2・4土曜日(週5日)
【勤務地】ワークハウスみやま(高崎市金古町)
高崎市中川長寿センター(高崎市井野町)
【時給】880円～(3ヵ月の試用期間中は850円)
【待遇】通勤手当あり、賞与あり、有給休暇あり、雇用保険各種あり

グループホーム世話人（パート）

【資格】経験不問、要普免
【勤務】朝 7:00～10:00、夕 15:00～19:00(勤務時間用相談)
ローテーションにより月15日程度、土日、祝日勤務有り
【勤務地】吉岡町5カ所、高崎市菅谷町1カ所
【時給】930円～(3ヵ月の試用期間中は880円)
【待遇】通勤手当あり、賞与あり、有給休暇あり、雇用保険各種あり

グループホーム入居者募集

ハーモニーやまなみ 2号・5号に空室あり
入居を希望される方は下記までお問合せ下さい。
見学、相談、随時受け付けています。
2号、5号は共に男性専用です。

レクリエーションのご案内

絵画教室
今月は、12月7日(土)に群馬県庁1階県民ホールで開催される群馬県障害者作品展の見学に行きます。お楽しみに！

法人からのご案内

新年度(令和元年)度賛助会員募集中！

「山脈」の設立趣旨に賛同し、私達の活動を応援してくれる方を募集します。一口2,000円で何口でもかまいません。昨年に引き続き、皆様の温かいご理解とご支援を宜しくお願い致します。

賛助会員 年会費 2,000円(一口)

発行 特定非営利活動法人 山脈 理事長 笹澤 繁男

住所：群馬県北群馬郡吉岡町大字南下 983-2(みやま工房内)

電話：0279-54-2947 FAX：0279-54-9171

E-mail：rep@npo-yamanami.jp

URL：<http://www.npo-yamanami.jp/>

運営 就労継続支援B型事業所「みやま工房」
就労継続支援B型事業所「麦のゆめ」
主たる事業所「麦のゆめ」 従たる事業所「工房はるな」
多機能型事業所(就労継続支援A型・B型)「キッチンハウスみやま」
多機能型事業所(生活訓練・就労移行支援)「ワークハウスみやま」
グループホーム「ハーモニーやまなみ」1号・2号・3号・4号・5号・6号

(文責：笹澤賢一)

NPO
法人

山脈ニュース

2019年
12月号

障害者の多様なニーズに対応した委託訓練事業

11月5日(火)、就労移行支援事業を実施している「ワークハウスみやま」を会場にして、群馬県立前橋産業技術専門学校と群馬県産業人材育成課が主催の「委託訓練事業説明会」が開催されました。この説明会は、群馬県が実施する障害者委託訓練事業について、障害者の就労支援に関わる業務を担当している支援機関の職員やその利用者に「委託訓練」についてより理解を深めて頂くことを目的として開かれました。

今回、「ワークハウスみやま」の職員と利用者、そして、法人の運営する他の事業所からも職員と利用者が集まり、総勢20数名が真剣に説明を聴きました。

群馬県が実施している委託訓練には、パソコンスペシャリスト育成コースや介護職員初任者研修コース(ホームヘルパー2級)など、専門学校や各種学校等の民間教育機関等に委託した座学及び実技による学校形式の集合型訓練を行う「知識・技能習得訓練コース」と、民間等の企業を委託先とし、実際の事業所の現場にて実際の業務に関する作業実習を中心とした実践的な実践能力習得訓練コース(企業実習型訓練)があります。今回は、特に後者の実践能力習得訓練コースを中心とした説明をして頂きました。

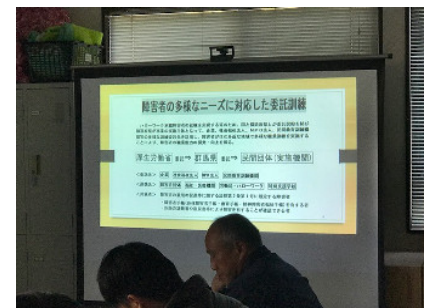
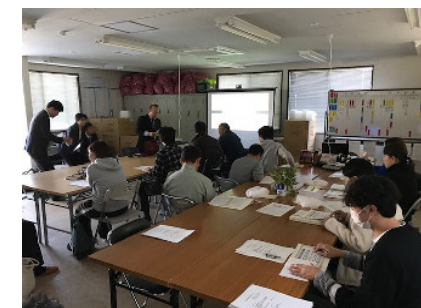
実践能力習得訓練コースには、150余りの県内の企業等が委託先となり、これまでに介護補助サービス等の介護系、自動車部品の組立等の製造系、一般事務等の事務系、ビルクリーニング等の清掃系、店舗清掃品出し作業等の販売系、野菜や養鶏等の農業系、クリーニングやリサイクル、接客サービス等のサービス系等、様々な業種における訓練が実施され、多くの障害者の方が就職に結びついています。その大きな特徴は、その高い就職率と定着率です。全ての企業が委託訓練の終了後、そのままその訓練生を採用するわけではありませんが、特に障害者雇用に理解がある企業や障害者雇用を検討している企業では、マッチングがうまく行けばその職場に採用されるケースも多々あり、過去五年間の実績でも80%の就職率をあげています。また、その際の定着率も高い傾向にあるそうです。

また、現在、実践能力習得訓練コースと委託を結んでいない企業でも、例えば、ハローワーク等で利用者さんが興味のある企業があった場合、群馬県産業人材育成課がその企業に委託訓練の説明を行い新たに委託訓練先として実践能力習得訓練コースを受講できる場合もあるそうです。

今後、「ワークハウスみやま」の就労移行支援においても利用者さんの希望を聴きながら、積極的に委託訓練を取入れ、ひとりでも多くの就職者を送り出して行きたいと思っています。

委託訓練実施状況

年度	訓練コース	定員数	入校数	修了数	就職数	就職率
H26	知能・技能習得訓練	30	5	4	2	50.0
	実践能力習得訓練	20	20	18	14	77.8
H27	知能・技能習得訓練	30	8	8	2	25.0
	実践能力習得訓練	20	23	18	15	83.3
H28	知能・技能習得訓練	30	14	14	4	28.7
	実践能力習得訓練	20	19	16	15	93.8
H29	知能・技能習得訓練	24	15	11	8	72.7
	実践能力習得訓練	26	14	14	9	64.3
H30	知能・技能習得訓練	24	12	11	8	72.7
	実践能力習得訓練	26	22	19	15	78.9
計	知能・技能習得訓練	138	54	48	24	50.0
	実践能力習得訓練	112	98	85	68	80.0



「きょうされん第42回全国大会 in あいち」に参加！

10月25日(金)、26日(土)の2日間、名古屋市国際会議場で開かれた「きょうされん第42回全国大会 in あいち」に、今年は理事長以下6名の職員が参加してきました。「きょうされん」の全国大会は、支援者のみならず多くの当事者の方が参加する大会で、大いに職員も刺激を受けてきたようです。参加者の声をご紹介します。



【レポート1】

10月25日、26日と全国大会に参加させて頂きました。国際会議場の大きさに驚かされ、白馬のオブジェに驚かされ、何より3,000人以上の参加者にも驚きました。内1,100人が当事者とのことでした、リクライニングの車いすの方や支援者の付き添いでの参加の方など、それぞれできる形での参加、学生などのスタッフも多く見られました。余談ですが、白馬のオブジェ？名古屋なら織田信長か豊臣秀吉かと思ったのですが、全然違いました。ミケランジェロとか？でした。

さて今回の大会ですが、日本で最初に名古屋で共同作業所「ゆたか作業所」ができたそうです。何も公的保障のない時代、想像できないほどの苦労があったに違いないと思います。「ゆたか作業所」ができたから今の制度やサービスが有るのかもしれない。

今回の大会参加の中で私が考えさせられた3つの事を皆さんにお伝えします。

まず「皆さん制度に囚われすぎていませんか？」の一言です。

A型、B型、移行、色々な事業所がありますが私たち支援者がうちはA型だから、B型だからと型にはまった、いいえ、型にはめた考え方をしているのではないかと言うことです。

私たちがしなくてはいけないのは利用者の可能性を見る事で「今よりもっと」と常に考えるべきではないか！と考えさせられました。

次に、ある事業所の事例の話です。共同作業所設立から数年がたち社会福祉法人になることができ利用者の代表がこう言ったそうです「社会福祉法人になって、職員の給料は上がっても私たちの給料は上がっていない、前のままではないですか」とそれを聞いた時「すごいな」と思いました、利用者が自分たちの思いを言える、職員が利用者に素直な思いを言わせる事が出来ている。「私たちはそこまでの信頼関係が作れていない」利用者たくさん話さなくては！と思いました。

最後に、共同作業所ができて50年が経ちました、制度もサービスも良くなりましたが50年前から今でも変わらないものがあります、それは「障害のある方のいる家族の思いや、家族の負担です」との話でした。私たちは目の前にいる利用者のことを考えがちですが、その方が良くなる事が家族の思いや、「私たちが居なくなったら〇〇はどうなるのだろう？」との心配。少しでも自立する事で家族への経済的な負担も軽減できるかもしれません。

当事者本人だけでなく、その方を取り巻く環境や背景、家族のことも考えたいものだと思います。

ワークハウスみやま 管理者 山内克男

【レポート2】

共同作業所が初めて名古屋市に設立されてから50年という節目の年ということで、共同作業所の始まりと共同作業所づくり運動の歴史、きょうされんの前身である共同作業所全国連絡会が結成できるまでの話を聴くことができました。

きょうされんの明確な目的や活動内容、また、その後の歩みと発展をより理解すると同時に、障がいのある人達が「当たり前で働ける」、「選ぶことができる暮らし」ができる世の中にするためには、まだまだ多くの課題があり、こうした課題に対して、私達は様々な観点から考え・学び、実践・運動に取り組んでいかなければならないと強く感じました。

ここ数年、「キッチンハウスみやま」では、「働く」をテーマに利用者の作業内容や作業環境の見直しと改善、利用率アップや能力開発など工賃向上につながる支援を意識してきました。私達の取組みと利用者の頑張りによって平均工賃は実際に上がり、新しい作業を経験できるようになり、利用者各自の目標はより明確になりました。

また、「これをやりたい！」「やってみよう！」という自らが前向きに作業を選択し、挑戦する場面も増えてきました。

しかし、一部の利用者には変化して行くことが負担になっているようにも見えます。

今回、「きょうされん全国大会」に参加して、近年の「キッチンハウスみやま」の変化に対して、利用者は「やりがい」、「働く喜び」を感じているのかどうか、改めて確認する必要があるのではと思いました。職員の考えや目標が利用者への押し付けになってしまわないように、職員・利用者が共に成長できるようバランスをとりながら前進していかなければならないと思いました。

「キッチンハウスみやま」の事業を通じて障がいを持った人が地域社会と繋がっていくようこれからも「学び」と「挑戦」を続けて行きたいと思いました。

キッチンハウスみやま 管理者 船津和彦

「しんとうふるさと公園感謝祭 2019」賑やかに開催！

11月2日(土)、3日(日)の2日間、昨年より「麦のゆめ」が地域交流事業の一環として実施しています「しんとうふるさと公園感謝祭」が開催されました。当日は天気にも恵まれ最高のイベント日和でした。会場では、たくさんのお店が軒を並べ、どこも大いに繁盛していました。また、ステージでは、バンド演奏やフラダンスなど楽しい催しが開催されました。ご協力を頂きました関係者の皆様、大変にお世話になりました。

